

元自衛官幹部というキャリアを持ち、現在は3人の子育てをしながら、
毎日ぶどう畑で汗を流している「ぷてい・べるじえ」の中村忍さん

家族で東京から生坂村へIターンし、ぶどう農園『ぷてい・べるじえ』を開業した中村忍さん。Iターン前は、陸上自衛隊の幹部として部隊を率いて指揮を執っていたというキャリアの持ち主です。

現在はぶどうの栽培や販売を中心に、食全般にも目を向け、「フードコーディネーター」「味わい教育インストラクター」の資格を取得し、活動の幅を広げています。



◇家族構成を教えてください。

☆主人と子供3人の5人家族で、小5の男の子、小1の男の子、年長の女の子がいます。
(まだ大変ですね。)そうですね。でもね、最近は楽になってきたと思います。ある程度自分でできるようになってきたから。一番下の子が生まれた時のこととか思い出せない位で、「どうやって育ててきたのかなあって」今でも思いますね(笑)。(ここに來られた時、一番下の子はおいくつだったんですか?) まだ生まれてなかったんです。一番上の子が2歳半の時に東京から引っ越してきて、その時は下の2人はまだ生まれてなかったですね。
(そうなんですね!)

◇仕事と家事・育児の両立をしていく上で、どんな所が大変でしたか?

☆そうですね、農作業って待ってられないじゃないですか。うちは子供を見ってくれる人が周りにいないので、子供が病気した時なんかは仕事も休めないんだけど子供も見なきゃいけないっていう、まあしょうがないんですけど。(そうですね。畑と家を行ったり来たりっていう状況ですね。) だから子供が熱のある時は家に居るしかないですけど、ちょっと熱下がってきたら作業しに畑へ連れてったりしてましたね。具合が悪いのは分かってるんですけど、そうも言ってもらえなくてね。でも、早く治して保育園行ってもらわないとっていうのもあるんだけど。(そういう所が難しいですね。) 家のことも全部やらなきゃいけないしね。だいぶ寿命縮んだんじゃないかなって思いますね。(その位大変だったことですね、育児と仕事の両立って。お手伝いとかは?) やってくれるようになりましたねえ。種なしにするためにホルモン剤に房ごと漬ける「ジベレリン処理」という作業があって、作業した房に色つきの洗濯ばさみを付けてくんですけど、お兄ちゃんはそれをやってくれますね。(目印ってことですか?) そうですね。漬けた順番に色を決めておくんですけど、今日は黄色を付けてねって言うtoやってくれるので、だいぶ助かりますね。

◇両立の大変さを伺いましたが、反対に得たものって何かありますか?

☆そうですね、家族が増えたっていうのが一番大きいですね。東京にいた頃、主人は日付が変わった頃にしか家に帰ってこないto、子供の寝顔しか見られないような生活だったんですけど、今はいくら忙しくても日が暮れて真っ暗になっちゃたらもう作業ができ

ないですし、そういった意味では夜は必ず帰ってくるから、家族の時間は持ててるかな。一緒にいる時間は長いですけど、「じゃあ旅行に行こうか」とか、そういうことはできないですね。農閑期の冬場であっても、ハウスの温度管理や積雪・強風対策があって何か起きたらすぐにハウスに駆けつける体制をとっていないといけないので、どこかに出かける機会は減多にないですね。それに今の時期はぶどうに水をやらなきゃいけないんですが、何日の何時からって決められている時間にしかお水がまけないので、必ず家周辺にはいなきゃいけないんです。（あら～、それは大変ですね。ここら辺は標高どの位あるんですか？）600 m 位かな。（そんなに高いんですね。だから、美味しいんですかねえ。）そうだと思います。特に8月とかぶどうが成熟を迎える頃しっかり朝晩気温が下がってくると、そこでぐっと甘みがのってくるんですよ。（じゃあ朝晩の気温が低いっていうのがいいんですね。）そうですね。糖度が上がるみたいです。あと色もつきやすいかな。暖かい地域で作ると色が付きにくい品種とかもあるんですよ。寒暖差が大きいという気候的な面で、長野県は恵まれていると思います。

◇ストレス解消法は何かあったり、やってたりしますか？

☆東京にいた頃だとスタバにコーヒー飲みに行ったりとかしてたんですけど（笑）。ここは一番近いスタバでも松本まで行かないといけなくて、遠すぎるしお金もかかるし、今は昔ほど行かなくなりました。やっと最近、何もないことに慣れてきて、去年の秋に家を建てて庭ができたので、そこで花や野菜を植えたりして結局土いじりしてるんですけど、それがいい感じで。ぶどうは仕事だから失敗しちゃいけないとか（神経使っちゃうんですね）そうですね。失敗すると怒る人もいるから（笑）失敗しないようにっていうのがあるんですけど、家庭菜園の場合は失敗しても誰も文句言わないし、自分でやってるだけだから楽しくやれてますね。

◇お料理は好きですか？

☆そうですね。好きな方だと思うんですけど、毎日毎日ご飯作るってなると時々嫌になるときもありますよ。（確かに！！）嫌いではないですけどね（笑）。

◇ご出身は福岡県とのことですが、自衛官になるために上京されたんですか？

☆そうですね。高校まで福岡にいたんですけど、大学は防衛大学校なんです。進学をきっかけに神奈川に出ました。（防衛大学校は何年なんですか？）4年です。普通の大学と同じで4年で出れば卒業、学士になります。それプラス幹部自衛官になるための訓練や防衛学といって国防関係の色々な戦略だとか、ちょっとした戦史とかそういったものを学ぶ授業があったりするので、そういうところは普通の学校とはちょっと違うのと、全寮生活で上下関係があったりしました。（やっぱり厳しいんですね。）部屋はさすがに女子ですけど、授業も訓練もやることは全部男子と一緒にしたね。（訓練も一緒なんですか～。きついですね。）防衛大学校は自衛官に将来なるための人たちを育成する大学校なので、基本的にはそこを卒業したら、陸・海・空どれかの自衛隊に入らなきゃいけないんですよ。私は、そのまま陸上自衛隊に入隊しました。防衛大学校を卒業すると、自動的に自衛官として現場の指揮をするための教育を受けるんですよ。各自衛隊で教育場所が違うんで

すけど、陸自の場合は久留米にあったので、私たちの頃は半年間久留米で過ごしてから、それぞれの部隊に配属が決まりました。私は東京の部隊に配属になって、その後も退職するまで10年位東京でやってました。自衛官の指揮官だから現場の部隊を率いて演習したり。職種によっても配属される部隊によっても違いますけど、基本的に防衛大学校を出ると、小さな部隊の指揮官で勤務します。女子の幹部となると極々握りで、部下は全員男性だったってこともあります。(全然知らない世界なので、驚くことばかりです。)

◇知らない土地に来て農業を始めて、不安はありませんでしたか？

☆まあ何とかするしかないから、心配してもしようがないって最初は思ってたけど。ただ、その農業駆け出しの頃は下の子たちは生まれたばかりだし、もう見えない忙しさに不安を覚えるっていう感じでした。いつになったら私はこの育児と家事と畑の忙しさから解放されるんだろうって。(そうですね。)

◇自衛官だった忍さんですが、何をきっかけに農業に転換することになったんですか？

☆私、自衛官が嫌だった訳でもなくて定年までいようかなって思ってたんですね。ちょうど最初の子が生まれて1年育児休暇取って、復帰して1年位経ったところだったんですよ。そんな時に主人が地方の活性化に興味があって。地方の産業っていったら農業で、農業が魅力的な仕事にならないと活性化にならないよねって。農業ってきつい、汚い、給料安い、忙しいのに収入少ないみたいなイメージってどうしてもあると思うんですけど、やっぱりそこが変わって「農業でもちゃんとご飯が食べられるよ」っていうのがないと、誰も若い人なんてやらないよねって。じゃあ私たちが一生懸命頑張って、大袈裟かもしれないけどモデルケースみたいになれば真似してくれる人がいるんじゃないかなあって(主人が)言い出して。私は公務員だし、辞めなくて一生いけばお給料もらえるんだし、そんなリスクを冒さなくてもいいんじゃないの？なんでわざわざ私たちがそんな苦労しなきゃいけないの？って、最初は反対したんですけどね。子供の事も考えて、学校行きだして転校するよりは今は動いた方がいいかなって。(ちょうどタイミング的にいい時期だったんですね。) そうですね。で、しょうがなく辞めました(笑)。(未練は？) そうですね、辞めてしまったので今さら戻りたいとは思わないですけど、嫌いで辞めた組織ではないので、いつでも応援していますよ！

◇移住先を長野県、生坂村にしたのは何故ですか？

☆農業やるってなった時に別にどこかツテがあるわけでもなくて、どうせ作るなら好きな果物にしよう、ぶどうとかモモがいいかなって。たまたま東京で新規就農制度をいくつか探しているうちに、生坂村の農業公社がされている農業研修制度があるっていうのをイベントで知って。そこで、生坂の農業研修制度に非常に興味を持ちました。農業でも特に果樹経営の場合、先行投資が大きくて収益が上がるようになるまでに何年もかかるのが普通なんです。苗木を植えてからまともな実が成るまでに何年もかかりますから。ところが、生坂の場合は、もうぶどうの木があって実が成る畑を引き継げる。だから、初年度から一応ぶどうが獲れるわけですよ。棚とか何もない所でぶどう棚張るのもすごくお金がかかるし、なおかつ収益上がるまでに何年もかかるってなると、初心者が挑戦するのはすごくハ

一ドルが高い産業なんですけど、その部分のハードルが非常に低いっていうのと、新規就農された方が離農してしまうのが少ないということで、こちらにお世話になることになったんです。（長野県ってどんなイメージでしたか？）そうですね、山があって空気がきれいとか、雪が降ってみんなきっとスキーがうまいんだろうなって思っていました。（今は、長野県の魅力はどんなイメージですか？）山の景色はすごくきれいだと思いますね。雪景色とかも。空気もきれいで星空がきれい。水もきれいで美味しいし。この辺は標高600m位なので、星空がすごくきれいだなって思います。東京なんて町の明かりで、ほとんど星なんて見えないんですけど、こっちは街灯もないから（笑）空気も澄んでるし、すごい星空がきれいなので、いいなあと思います。タダで楽しめて。（タダでプラネタリウム見てみたいですね）そうですね。いい感じです。

◇忍さんが小さい頃や学生の頃、はまっていたこと、やっていたスポーツなどがありますか？

☆ピアノはずっとはまってました、高校卒業するまで。（今でもたまに弾いてますか？）弾きます。本当はもうちょっと練習する時間がほしいんですけど、なかなか楽器弾くまでの時間が持たなくて。（スポーツは？）大学の頃はバスケットやってましたし、中学の頃は卓球部でした。基本、運動は割と好きな方ですね。（運動神経良さそうですね！）

◇フードコーディネーターとか面白い教育インストラクターの資格をお持ちということなんですが、具体的にどんな資格なんですか？

☆主人は営業だとか経理だとかは得意なんですけど、その作ったものをリアルに消費者に届けるところっていうのは、料理を作る訳じゃないし買い物行く訳じゃないので、消費者の顔とか消費者が考えてることとかあまり分からないんじゃないかなあって。どっちかっていうと買い物行くの私だし、食べる側すなわちお客様側の立場に立てるのは私なのかなって。私が持ってるフードコーディネーターの資格の中でも専門は商品開発っていうのなんです。どんな風な見せ方をしたらお客さんに喜んでもらえるかなとか、今の消費者が求めているものはこういうものだから、こういう企画をしたらどうかなとか、どちらかというとそういう分野なんですね。資格取っただけで何かできるわけではないんですけど、ちょっと勉強したりとか、そういうのに携わってる方と人脈を持つことで、自分の仕事に役に立てるんじゃないかと思って資格を取ってみました。なので、フリーのフードコーディネーターとしてクライアントに何か提案するとかっていうことは全然やってなくて、どちらかというと自分の畑で商品開発の考え方を取り入れているのが現状です。面白い教室もフードコーディネーター繋がりの方からの紹介がきっかけで始めたんですが、五感を通じた教育っていうんですかね、食べるってただ口で食べるだけじゃないっていうか、五感をしっかり使って、味覚もそうだし音（聴覚）もあって、におい（嗅覚）や見た目（視覚）、触った感じ（触覚）もあったりして、それプラス食べ物がそこに来るまでの背景みたいなものもあるじゃないですか。そういったところを、みんなで感じ取りながら深く味わって食べようってところから、ひいては人間教育に繋がりますよね。ただ食べるという行為だけではなくて、食を通じた人間教育みたいなものを目指してるんですよ。私の実感としては、たぶん食を通じて学べないものってなくて、農作物の場合だと、それを作る人がいて、

農業っていう部分があって、流通っていう部分や自然科学っていう部分があったり、あとは売り買いする経済の部分もあって、学ぼうと思えば何にでも学べるというか、そういった面でも子供だけではなくて大人の教育にもすごくいいかなっていうので、教室に参加してみたりとか、一応インストラクターも取っているんで、味わい教室を開催することもあるんですよ。（食育って感じですか？）簡単に言えば食育みたいな感じです。

◇農作業をするにあたって、こういうのがあればいいなっていうのは何かありますか？

☆あ～、ルンパってあるじゃないですか、掃除機の。あの草刈り機があればいいと思います。実験段階で小さなソーラー式の草刈り機はあると聞いたことがあるんですが、まだ実用化はされていないようですし、大面積刈れるほどの性能は有していないと思います。ルンパがあるくらいだから、技術の粋を結集すれば大面積を刈れる自動草刈り機はできるんじゃないかと思います。あと、セットすればスピードスプレーヤー（薬剤散布で使用する農機具）が勝手に走ってくれるとか。ぶどうって軸の長さをそろえたり、粒を抜いたりするような細かい手作業があるんですけど、そういうのはやっぱり人間の手でやるのが今は一番いいと思います。草刈りや農薬まくのって機械の方が得意だし、早いと思うんですよね。これからは人口も減ってくるから、機械で済むことは機械にやらせた方がいいんじゃないかな！

◇忍さんが、今後新たに始めたいことはありますか？

☆フードコーディネーターの仕事とかも少し活動範囲を広げて、いずれはできたらなと思ってます。ぶどうも今、結構面積広がってきたんですけど（どの位あるんですか？）今ね2町歩（約2 ha）やってるんですけど、ぶどうってどうしても時期が偏っちゃうんですね。夏から秋にかけて忙しいのに、冬場はどうしても下火になっちゃって。冬場作れるようなものに挑戦したいなと思ってます。個人的には花が好きだから花をやってみたいなあとか。いずれバラを作りたいなって思ってて。趣味であちこちいっぱい植えてあるんですけど、難しいからねえ。今は商売じゃないから、すごく楽しみながらやってますけど。（それも、ここに来る人の観光の一つの目玉としてバラ園やったらどうですか？）昨年、ぶどう団地で「バラの花咲くぶどう園」という企画があって、苗木をいただいて植えたのがきっかけだったんですが、花は咲くときれいで見ているだけで癒やされますよね。食べて美味しい訳ではないんですけど、その時に思いました。見て楽しむ世界ってあるんだ。同じ農業でも食べるだけじゃない世界ってあるんだなあって。そこから結構、花に興味を持ちましたね。（花は手がかかるから大変ですけど、頑張ってください！）ありがとうございます！

フランス語で「小さな果樹園」という意味の「ぷてい・べるじえ」。この名前を覚えてもらいたいというご夫婦の想いと、いつか規模が大きくなっても小さな畑だった頃の初心を忘れない、小さな果樹園らしさを忘れないようにということから名付けられたそうです。こちらのつたない質問にもハキハキと答えて下さる姿には惚れ惚れしてしまいました。本

マッキーがおじゃまします！

関東農政局長野県拠点

